

22

インフルエンザワクチン
について医療の
小ネタ

インフルエンザのピーク時には、1日100名を超える陽性者と、ごく近い距離で接することになりますが、当院のスタッフは誰もインフルエンザに感染しません。なぜでしょう？その謎を解くカギは、「ブースター効果」と「免疫記憶」にあります。

特定のウイルスに対するワクチンを打って3週間くらい経つと、そのウイルスが体内に入った時にミサイルのように狙い撃ちをする“抗体”が出来ます。それと同時に、ミサイルを組み立てる設計図が「免疫記憶細胞」に保存されます。



その後フルが流行り始めて、自分の抗体で潰せる範囲内のウイルスが体内に入ると、2本目のワクチンを打つと同じ効果が得られますが、今度はすでに設計図がありますので、すぐに効率よく大量のミサイルが作られることになります。これが「ブースター効果」です。それが繰り返されると、陽性者と接触する度に、体内の抗体量はどんどん増えて行きます。

しかし時間が経つと記憶は薄れます。そして、せっかく作ったミサイルも数が減って行きます。このまま数年たつと、またゼロから始めなければなりません。そうならないためには、ワクチン接種を毎年継続して、「免疫記憶」を保存することが必要です。

さらに毎年のシーズンごとに十分な「ブースター効果」を発揮させるためには、解禁になったらすぐに打つことが大切です。

繰り返しますが、以上の効果はわれわれ自身が“生きた証人”です。

ワクチンは5か月しかもたないから、なるべく遅く打った方が良いという医療者？
がいます。田原総一郎ではありませんが、もうヒンデヒマヘですよ（笑）